

平成30年度第2回 瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会

議事録

日 時：平成30年10月22日（月） 午後7時00分から午後8時20分

場 所：瑞浪市役所 大会議室

出席委員：渡邊 勝利（委員長）、山内 正雄（副委員長）、逸見 企代江、
上田 小夜子、後藤 誠一

欠席委員：田中 恵子

※ 委員6名中5名の出席であり、委員の過半数の出席となり、瑞浪市夢づくり地域
交付金等事業審査会規則第6条第2項の規定により、本会議は成立。

事務局：瑞 浪 市 長 水野 光二
まちづくり推進部長 景山 博之
市民協働課長 兼松 美昭
まちづくり支援係長 横井 宏之
まちづくり支援係 小木曾 匡洋

日 程：

1. 市長あいさつ
2. 審査委員長あいさつ
3. 活動報告
 - ・平成29年度夢づくり市民活動補助金事業
瑞浪吹矢同好会「スポーツ吹矢拡大事業」
4. 事前審査
 - ・平成30年度夢づくり地域交付金ステップアップ事業
大湫町コミュニティ推進協議会「大湫宿古民家再生活用事業」
5. 講評
6. 事務連絡
7. 閉会

【1. 市長あいさつ】

一日のお仕事等お疲れのところ、平成30年度第2回瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会にご出席賜りありがとうございます。

昨日、清流の国ぎふ郡市対抗駅伝大会がございました。これは、県大会にあたるものですが、県下では大きな大会と位置づけしてみえるようで、各郡市町村が代表チームを結成し、優勝を争う大会となっております。今回が10回目の開催ということでしたが、瑞浪市のチームが優勝するという活躍を収められました。10区間ある中で、小学生が2人、中学生が2人、高校生が2人、一般の方等々で襷をつなぐこととなっておりますが、1区から4区まで1位を保ちながら、5区で岐阜市に僅かな差で抜かれて2位になってしまいましたが、6区から10区まで再び1位を守り、ほぼ完全優勝を果たしてくれました。特に、小学生・中学生の活躍は素晴らしく、偉業を成し遂げてくれました。瑞浪市では、市内の高校や大学が様々なスポーツに盛んに取り組んでいただいています。大変ありがたいと感じております。子どもたちに負けないよう、まちづくりに携わる皆さんも創意工夫していただき、大いに力を発揮していただきたいと思います。

本日は、事前会議の場で、各地区のまちづくり新聞を審査委員へ配布させていただきました。私自身は、各地区の事業へお邪魔させていただくことで、それぞれの地区の取組みをこの目で確認させていただいておりますが、多くの住民の方々にとってこうした新聞は、他地区の動向を知る術として、とても重要な情報発信ツールとなっております。この新聞を拝見させていただくことで、それぞれの地区の頑張りが手に取るようにわかるため、まちづくり活動自体の認知も高まってくるのではないかと思います。まちづくり新聞に限らず、ホームページも活用していただき、ご自身が住んでいる地域に加えて、他地区の情報も積極的に入手していただき、参考としていただくことで、更に大きな成果につながれば、大変ありがたいことだと感じております。

ここで一点、お願いさせていただきたいことがございます。これまでに、皆さんからの要望により、大きな事業を計画した際に多大な費用が発生するため、通常事業に加え、まとまった資金の補助をして欲しい、という提案に基づいてステップアップ事業という制度を設けさせていただいております。本日は、大湫町がステップアップ事業に取り組まれるということで、プレゼンテーションを行っていただく訳ですが、他の地区の皆さんも、是非、この制度を活用していただくことで、通常事業に加えた事業を展開していただき、5年後、10年後の地域の活性化につながるような事業としていただければと思います。これからプレゼンテーションしていただく大湫町を参考としていただき、ステップアップ事業にぜひチャレンジしていただければと思います。

以上でご挨拶とさせていただきます。

【2. 審査委員長あいさつ】

委員長という大役を仰せつかりました、渡邊でございます。不慣れではありますが、審査委員の皆さまのご協力をいただきながら、スムーズな議事の進行に努めたいと思い

ます。本日は、ご参会いただき誠にありがとうございました。

【3. 活動報告】

瑞浪吹矢同好会「スポーツ吹矢拡大事業」

・プレゼンテーション

省略

・質疑

○委員

初めて、吹矢を拝見させていただきました。体験したことのない方からすると、危険も伴うように感じましたが、これまでに事故等は発生していませんか。

●瑞浪吹矢同好会

これまでに、3年間活動しておりますが、事故等は一度も発生しておりません。参加者には、初めての練習の際に、競技時には自分の両脇に人がいないこと、矢を的から抜きに行く際は必ず隣のレーンの人と取りに行く、といったマナーもお伝えしています。

○委員

私も初めて、吹矢を拝見させていただきました。会員の皆さんは、技術の向上のために、何かトレーニングをされているのでしょうか。

●瑞浪吹矢同好会

練習の際は、準備運動として、吹矢体操を10分程度行います。体側やスクワット、捻転といった運動を事前に入念に行います。柔軟性や呼吸法といった観点からも、大変健康によいスポーツだと実感しております。

○委員

吹矢人口の拡大のために、小学生や中学生といった次の代を担う子ども、若者に対しての普及活動は行ってみえますか。また、実際の会員の中で、こういった若い方はみえますか。

●瑞浪吹矢同好会

子ども、若者に対しての普及については、活動当初から検討し、学校へ伺ったこともあります。しかし、学校のカリキュラムが事細かに定められていたため、介入する余地がございませんでした。

また、時々ではありますが、体験者として、自身の子どもや孫をつれてみえる方もおりますが、子ども、若者の会員はございません。

我々は、基本的に平日の夜間に活動しておりますが、活動日も会員拡大に向けて、今後検討していきたいと思っております。

○委員

貴団体は、吹矢の普及活動だけでなく、他団体の活動にも積極的に参加してみえます。大変素晴らしいことだと感じております。今後も引き続き頑張ってくださいと思います。

【4. 事前審査】

《審査会の進め方について説明》

～質疑なし～

大湫町コミュニティ推進協議会「大湫宿古民家再生活用事業」

・プレゼンテーション

省略

・質疑

○委員

プレゼンテーション資料にあります、転入者の推移を見ると、平成30年は5件、これ以前では、年に数件とあります。転入対策活動の成果かとは思いますが、どのように捉えてみえますか。

●大湫

この数値の中には、Uターンだけでなく、Iターンなども含まれております。これも転入対策委員会の取組みの成果だと捉えております。Uターンを検討している方にとっては、地元が活発に活動していることが、地元に戻ってくる動機の一つになるのではないかと考えております。

○委員

転入してきても、生活することができなければ、定住にはつながりません。一過性の支援でなく、転入してみえた方々に横のつながりを提供する、といった住民である皆さんのバックアップが更に重要となってくるかと思えます。今後、更に大湫町が活発な地域となるよう期待しております。

○委員

ここ数年の大湫町の人口の推移について教えてください。

●大湫

プレゼンテーション資料中のグラフにありますとおり、転入者については、ここ数年で上向きの数値となっております。一方で転出者数については、家族で都会へ引越しされるようなケースでは、まとまった数値となっております。

○委員

今回の事業では、まず若い芸術家を集めるということでしたが、その後、芸術家だけでなく、もっと大きな事業展開などを考えてみれば教えてください。

●大湫（実際の転入者）

大湫町には、芸術家だけでなくそれぞれの家庭の中に伝統を宿しており、これも一つの地域資源になると考えております。私は、仕事として庭を扱っていますが、こうした資源も活用しながら、更に大湫町の魅力を発信していけたらと思います。

【５．講評】

本日、ご発表いただいた団体の皆さま、ありがとうございます。また、最後までご公聴いただいた皆さま、お疲れ様でした。

まず、活動報告していただいた瑞浪吹矢同好会さんについてです。発表もさることながら、作成された資料も素晴らしいものでした。結成当初６人だった会員が、今や４０人を超えるまでに成長した点も頷ける内容だったと思います。あまりハードなスポーツという印象ではありませんが、多くの方にとって親しみやすいスポーツではないかと感じました。また、スポーツ吹矢というものが、競技だけでなく、健康増進やふれあいといった観点からとても重要なものだとして認識させていただきました。どうか、今後もご活躍いただくとともに、本日お越しの方々におかれましては、まちづくりの事業として、またご自身の地区のイベントとしての連携をご検討いただければと思います。

次に、大湫町コミュニティ推進協議会のプレゼンテーションについてです。大湫町は、私の認識以上に、住民の皆さんが自主的にまちづくりについて考えていただいていることを発見いたしました。永続性のある美しい大湫づくり、ものづくりの里大湫といったフレーズに表されている通り、目先のことでなく、大湫町全体を大きなコンセプトで描いてみえるご提案をいただきました。これも大湫町の皆さんの力ではないかと感じました。実際に、このコンセプトに合った人材が、大湫町に集まり始めています。本日のご提案は、大湫町の更なる活性化に期待の持てるものだったと感じています。市としても、しっかりと連携をとらせていただき、サポートさせていただければと思います。これも転入対策委員会による取組みによるところが大きいと思いますが、昨年だけで１６人の方が大湫町に転入されています。どの地区でも人口減少は課題としてみえる訳ですが、こういった取組みをヒントとしていただき、それぞれの事業に取り組んでいただければと思います。

最後に、本日の２団体の発表を参考としていただき、来年度の事業展開をご検討いただくことをお願いいたしまして、講評とさせていただきます。ありがとうございます。

【６．事務連絡】

《事務局より事務連絡》

【７．閉会】

《まちづくり推進部長より閉会のことば》